

町民コミュニティ部会 第2回にむけた論点整理

平成 27 年 10 月 5 日

1. 町民の交流機会の確保

町の取り組み	部会の意見
①自治組織の立ち上げ促進	<p>《心のケアが必要である》</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 仮設のご年配の方が心配だ。心の底のケアが届いていない。 ● 仮設の住民の心の病が増えた。 ● 救急車の出動回数が多くなってきた。 ● 避難先の学校に慣れない子どもがいる。子どもの心のケアが必要かも。 <p>《自治会に入らない人もいる》</p> <ul style="list-style-type: none"> ● (双葉町へ) 戻りたい人もいるし、戻りたくない人もいるので、議論が難しい。 ● 南相馬では自治会がないので、話を聞こうと思ってきた。 ● 都会へ行った人たちの自治会の形成は難しい。 ● 自治会に入る必要のない人が多い地区もある。 <p>《自治会に入りやすい環境をつくる》</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 自治会に入らない人や、(集会所などに) 来られない人をどうやって集めるかが問題だ。 ● 自治会への入会は、口伝えやタブレットを使って、もっと入りやすい環境をつくる。 ● 隣町(近隣)ではないので遠い。交通費が高くて行けない。
②町民有志による NPO 法人等の設立	

<p>③行政区・自治会組織の在り方検討</p>	<p>《自治会相互の情報交換の場をつくる》</p> <ul style="list-style-type: none"> ● それぞれの自治会が何をして、どう動いているか、情報を交換できていない。 ● 各自治会どうしの情報共有の仕組みがない。 ● 地方の避難先といわき市内の自治会など、離れた場所と本部をどうつなげるか。 <p>《町と自治会の連携体制をつくる》</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 自治会の意見をまとめて、町に提言してはどうか。 ● 町からの回答を、避難している町民に知らせる仕組みを充実させる。 <p>《自治会の役割を明確化する》</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 自治会の役割を明確にしてほしい。 ● 自治会の役割の明確化が大事。そうすることで、自治会同士の情報共有、自治会の意見をまとめて皆に出すことができるようになる。 ● 自治会があることによって、きずなが残っている。自治会がないと入りたくても入れなくなる。 ● コミュニティとはなんであるかが問われている。 ● 率先してやっていけるような自治会組織になっていきたい。 <p>《若い世代が参加する自治会にする》</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 自治会の構成員によって（活動の）違いが大きい。 ● 自治会の所属者は、高齢者が多い。 ● 避難先で自治会があるが、5～10年たったときに維持できるか不安だ（若い世代がいない）。 ● （自治会は）若い人には必要ない。新しい地域の人たちと仲良くして、双葉町を振り返らない人もいる。 ● 子育て世代が多い自治会は、どう運営すればよいのか。 ● 子どもがいる家族は、学校の付き合いが増えて、双葉の交流が少ない。
-------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

	<p>《新しい地区（避難先）に対応した自治会の範囲を決める》</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 仮設住宅の自治会が消滅したという状況がある。そうならないためにも、今後は長期にわたって、このような会議で議論していきたい。 ● （避難先で）町の自治会がないところもあって、他の地区（避難先）の自治会に入ったりしている。（入会できる）自治会の範囲を決めないといけない。 ● 自治会の再生を行っている。双葉町の集落でまとまるのではなく、新しい地区（避難先）で新しい自治会を作っている。 ● 借上げと仮設を合わせた自治会づくりが進められている。 ● 将来を見据えた場合、自治会が中心となると考えている。しかし、避難先で浮いてしまっても困るので考えていかないといけない。 ● 町は自治会をどのように認めているかを明確にしてほしい。 <p>《自治会に関する町の役割を明確にする》</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 自治会の予算配分をもっと考えてほしい。（補助金の増額） ● 行政は自治会にすべてを任せ過ぎている。もっと柔軟に対応してほしい。 ● 町は（自治会に関する）行政施策を県へもっと要請をするべき。
<p>④町民主体の交流イベント 企画に対する支援の仕組み 構築</p>	<p>《集まる人の輪を若い世代にも広げたい》</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 年に一度集まるが、メンバーが固定している。 ● 週2～3回集会を開く。メンバーが決まっているので、もっとみんなと輪を広げたい。 ● 20～30代の方々にも参加してもらいたい。連絡してもなかなか（イベントなどへ）来ない。 ● 小学生、中学生、高校生、大学生、20代などの委員長（代表）みたいなのを置いて、役場の人と話をしたり、アンケートをとったり、このような会議を開いたりするのが大事。 ● 僕たち（45歳）よりも若い世代を取り込んでいくのが大事だ。

	<p>《交流イベントの運営資金が足りない》</p> <ul style="list-style-type: none"> ● イベントなどは補助金で運営しているが、人数に見合った資金でない。 ● 「交流会＝食事が楽しみ」なのに、1人500円でやってくれといわれた。(資金が)足りない。
⑤各地で開催される交流イベントの情報提供	<p>《交流イベントの情報を借上住宅等に提供する》</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 仮設住宅は小さな双葉町であり情報が入ってくるが、借上住宅はだれも来ないので情報が入らない。 ● 自治会では、班長と会員の会話を通じて直接交流している。
⑥交流施設の設置	<p>《町民が一堂に集まる場を確保する》</p> <ul style="list-style-type: none"> ● いわき市内には135世帯200人超が避難しているが、点在して孤立している。 ● 町民が一堂に集まる場所の確保が必要だ。 ● 娘が近くにいっても、双葉の人と顔を合わせるとうれしいという人がいる。 ● 小さな双葉町！！守られている感じ。 <p>《交流施設までの移動手段を確保する》</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 双葉町では3kmから5kmで外に出られたが、いわき市は市内でも20kmも離れているため、車や移動手段がないと動けない。 ● 仮設の集会所は移動手段があれば、遠くてもかまわない。 ● 場所と移動手段の整備が必要だ。 ● バスによる移動はうまくいかない。 ● 郡山ではバスにだれも乗っておらず、空バスが走っている。 ● 知り合いや親戚から「行きませんか」と声をかけていただき、同乗させてもらっている。 ● 移動手段もふくめて、高齢者の問題がある。 ● 集まるにしても送迎が心配だ。仮設がなくなればどうなるのか心配だ。
⑦復興公営住宅等の整備とあわせて、集まれる場の設置	<p>《復興住宅をもっと早く整備する》</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 復興住宅をもっと早く建設してほしい。

	<ul style="list-style-type: none"> ● 仮設住宅にいつまで入っているのか。町で（借上げ住居を）借上げられるのでは。 ● 復興住宅が早くできることを望む。平成 29 年度にできるそうだが、まだまだ遠い。 ● あと 2 年も仮設住宅にいるのか・・・長い。 <p>《みんなが利用できる集会所を増やす》</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 仮設住宅が無くなればどこに行くのか。集会所の不足や送迎の問題がある。町へ要望したい。 ● そこに行けば皆に会えるという所があるといい。 ● 集会所の場所がない。2 か月前に予約開始で、（他の利用者と）同じ日で重なったらじゃんけんなので必ずとれるわけではない。 ● 仮設の集会所は物置場になっている。 ● 借上げ住宅の自治会は一度に集まる場所がない。 ● 集会所は一つの町村だけでは無駄だと思う。（他町村も含めた）いくつかの自治会で利用したらどうか。 ● 集会所が不足している。利用頻度が少ないので借り上げるのも難しい。一つの自治会では難しいが、二つ三つとなればどうなのか。
<p>⑧各種支援のための助成制度のデータベース化と仕組みづくり</p>	

2. 町民同士が連絡を取り合うことができる仕組みの構築

町の取り組み	部会の意見
①電話帳作成について町民ニーズを踏まえ必要性を検討	
②気軽に連絡できる情報端末（タブレット等）活用の検討	<p>《タブレットは便利に使っている》</p> <ul style="list-style-type: none"> ● タブレットはLINEやTwitterもできるので活用している。 ● タブレットは使い勝手がよく、ストリートビューやナビを活用している。 ● タブレットのアクセスの利用制限の限度を引き上げてほしい。 ● 町のホームページで町民の声をよく見ている。 ● タブレットのネガティブ情報を拒絶して見ない人もいる。 <p>《タブレットの利用者をもっと増やす》</p> <ul style="list-style-type: none"> ● タブレットは非常に便利に使っているが、はたしてどのくらいの人が使いこなしているのか。 ● 勉強会を3回ほど実施したが、今は集まらなくなった。 ● 勉強会は参加者を待っているのではなく、できる人が声をかけるとよい。

3. 町からの情報提供の円滑化・充実化

町の取り組み	部会の意見
①知りたい情報をより多く提供できるように、広報誌等を充実させる	<p>《町の情報をもっと伝えて欲しい》</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 町の情報が伝わらない。この会議でも、初めて見る情報が多い。
②避難先での町民の活動状況等を提供するふるさと絆通信	
③町のホームページ構成などわかりやすいものに適宜直す	<p>《町のホームページの見やすさについて》</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 町のホームページで町民の声をよく見ている。(再掲)
④町のホームページの高度情報化	
⑤WEBカメラによる町内映像をホームページにて提供	
⑥ソーシャルメディアを活用したコミュニケーションの仕組みを構築	<p>《ソーシャルメディアの活用方法》</p> <ul style="list-style-type: none"> ● タブレットはLINEやTwitterもできるので活用している。(再掲) ● タブレットは使い勝手がよく、ストリートビューやナビを活用している。(再掲)

4. 双葉町の歴史・伝統・文化の記録と継承

町の取り組み	部会の意見
①ダルマ市等のふるさと祭りの開催支援	<p>《地域をこえて双葉のみんなが参加する祭りにする》</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 皆が参加するような新しい形のダルマ市を希望する。現在は参加する人が減っているので、誰もが参加できる参加型のダルマ市がよい。 ● コミュニティがバラバラになったので、本来の地域毎の祭りができていない。 ● 祭りの継承もしているが、かつての地域の人が集まったのイベントはなかなか難しい。そこに行けばみんなに会えると思い、頑張っている。
②子ども・若者が歴史・伝統・文化にふれあい、学べる場の支援	<p>《伝統芸能を子ども達に伝える》</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 伝統芸能の継承として「集まれ！ふたばっ子」をやった。山田の「じゃんがら」はとてもよかった。もっと（出演機会を）増やしてほしい。 ● 「せんだん太鼓」は、ふたばワールドで震災後すぐに活動した。双葉の学校でも教えている。双葉の人がいわきで教えている。 ● 「せんだん太鼓」は、総合学習の中で保護者やメンバーが教えている。
③歴史・伝統・文化を学ぶ場の確保	
④定期的な芸能祭の開催	
⑤各種イベントへの出演機会の確保	

5. 避難先住民との交流促進

町の取り組み	部会の意見
①避難先自治体等と連携し、交流会等の開催を促進	<p>《避難先に長くいても、普通の生活を取り戻せない》</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 避難先に長くいても、故郷は双葉町だということ。 ● 避難先は長くいても、ふるさとはなり得ない。(双葉の時のコミュニティ) ● 福島県の人からでも差別を受ける。お金をもらっているだろうと言われてたり、車を傷つけられたりする。 ● いつになったら避難民(という意識)が頭から離れるのか。 ● 心の復興の問題はずっと続く。終わりがないように思う。 ● これをすれば普通の生活だというのがない不安。 ● 復興はなかなか難しいが、人としての復興は早くしたい、避難民というのがいやだ。 ● 復興に終着点はない。 ● 物理的な復興はなかなかできないが、人間として復興したい。
②イベント(祭りや催事)への町民の積極的参加を促進	<p>《避難先地域のイベントに参加する》</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ラジオ体操を機に、双葉、楡葉、大熊の人と交流した。5分ほど話したが、一番楽しかった。(郡山) ● 埼玉では、双葉町民と避難先住民の文化交流ができています。
③自治組織等が避難先住民と交流する機会への支援	
④復興支援員を活用し、地域住民とのコミュニティづくりの人材の確保	

6. 震災・事故の教訓の記録と伝承

町の取り組み	部会の意見
①記録誌編纂に向けた体制整備と町民協力による記録の収集	
②震災・事故の教訓の展示施設・研究施設の設置を検討	

7. 教育環境の確保

町の取り組み	部会の意見
①町立学校（幼稚園、小学校、中学校）の再開	
②町独自の新たな教育方針・教育提供内容を提示	
③子供たちの「つどいの場」の提供（集まれ！ふたばっ子）	